【令和6年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立志賀中学校

○調査目的	◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度の全国学力・学習状況調査は、「国語」・「数学」の2教科で実施されました。いずれの教科においても全国や県の平均を大きく上回る結果となりましたが、「学習に対する興味・関心」の領域には課題が見られました。生徒質問紙では「規範意識」・「自己有用感」の領域ではおおむね平均に近い値となりましたが、「生活習慣・学習習慣」の項目には課題が見られました。

《強み・弱み》

国語では、「話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」・「話合いの話題や発言を踏まえ、“これからどのように本を選びたいか”について自分の考えを書く」といった ***【話すこと・聞くこと】*** や、「物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する」・「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」といった ***【書くこと】*** の領域に強みが表れました。一方で、「行書の特徴を理解しているかどうか」をみる ***【我が国の言語文化に関する事項】*** に弱みが見られました。

数学では、「正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ」・「三角形の合同を基にして筋道を立てて考え、証明することができるかどうか」などの ***【図形】*** に関する領域に強みが表れました。一方で、「与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうか」・「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうか」といった ***【データの活用】*** に弱みが見られました。

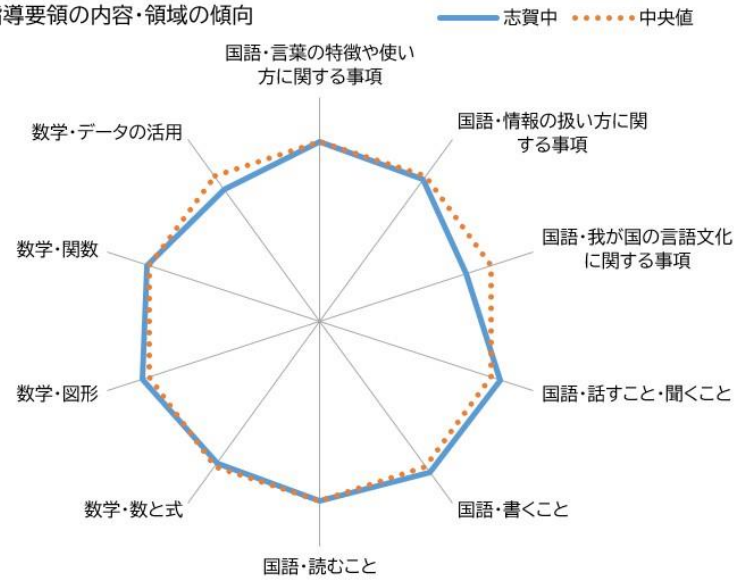
【学習に対する興味・関心】 については、多くの生徒が「教科の勉強は大切だ」・「将来、社会に出たときに役に立つ」と考えています。しかしながら、「学習に対する興味・関心」の項目については課題が見られました。生徒が主体的、意欲的に学習に取り組むことができるよう、日々の取り組みを積み重ねる必要があります。

生徒質問紙では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」といった ***【規範意識】*** に関する質問で、強い肯定を示す回答が多く見られました。また、「自分には、よいところがあると思いますか」・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」などの ***【自己有用感】*** に関する質問や、「毎日、同じくらいの時刻に寝て（起きて）いますか」といった ***【生活習慣】*** に関する質問においても肯定的な回答が多くみられました。一方で、「学校の授業時間以外（月曜日から金曜日・土曜日や日曜日）に、どれくらいの時間、勉強をしますか」といった ***【学習習慣】*** に関する事項の改善に向けた取り組みが必要です。

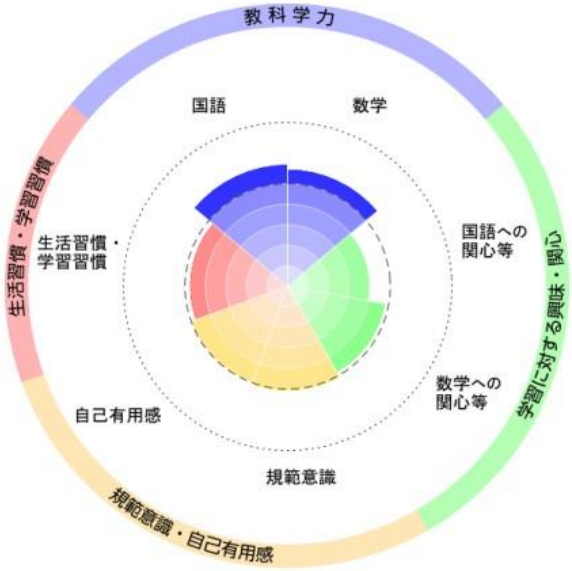
【強み・弱みレーダーチャート】

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

学習指導要領の内容・領域の傾向



生徒質問（全国基準）



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。
※破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

今年度の結果を受け、志賀中学校のこれまでの取り組み、校内研究と関連付けながら、次の取り組みを進めていきます。

① 生徒の行動目標『あいのしが』（あいさつ・いのち・のびのび・しんせつ・がっつ）の推進。**【望ましい生活習慣・学習習慣の育成】**
② 学級活動や学校行事、生徒会活動を通して、豊かな人間関係の構築を目指す。**【自己有用感の向上、互恵的な集団づくり】**
③ 4人グループの活動を軸に、“生徒のつながり・対話”を育む。**【学びに向かう力、表現力の育成】**
④ タブレットを有効に活用し、“生徒の学びの可能性”を広げる。**【情報・データ活用能力の育成】**
⑤ 授業の課題設定を工夫し、“主体的・対話的で深い学び”を生む。**【協同的な学びのある授業づくり】**